

# 2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 76	福山市立御野小学校
最終更新日	2022年(令和4年)5月24日	

## I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	問題解決能力・コミュニケーション力・意思決定力
<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、各校の重点目標への取組が着実に進められ、子どもたちの主体的な学びの成果が現れている。</li> <li>教職員のやりがいや充実感の高さは、教育の基盤となる。</li> <li>小中間で学力の伸び調査などにみられる課題を共有し、ICTを活用した授業改善等により基礎学力の定着を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を持ち、学校生活全般に渡り、主体的にがんばることができ、全体的な規範意識は高い。</li> <li>授業では協働的な学習に積極的に取り組んでいるが、意見の練り合いや合意形成、表現のスキル等が十分でない。また、基礎学力の定着にも課題がある。</li> </ul>	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、「なりたい自分」を目指し、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもがワクワク感をもって課題を探究し、自分らしく表現する子どもの学びの創造</li> <li>「あいさつ」の大切さを実感し、家族や友達、教師や地域に向けて実践する力の育成</li> <li>主体的な学びに係る「ふるさと学習」・SDGS・ICT活用による改善</li> <li>「家庭学習」における子ども主体の学びの推進のための発達段階に応じた取組の明確化と実践</li> <li>「体力向上」に向けた子ども主体の取組の推進</li> </ul>

## III 自校

ミッション
<b>「地域の宝」となる子どもを育成する。</b> ○児童の学びの場を充実させ、児童に学力をつける。 ○児童に当たり前のことが当たり前でできる自立の力をつける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域のために役立ちたいと思う気持ちを育てる。
学校教育目標
自ら学び、人間性豊かで、たくましく生きる子どもの育成
現状
<児童生徒> ○素直でまじめな生活態度で、決められたことは守ろうとする児童が多い。「御野しぐさ」として全校でよい行いをしようとする意欲がある。あいさつや掃除がコロナ禍の中で不十分になっている。自分の考えを持つことはできるが、全体へ向けて説明したり表現したりする力には課題がある。 ○全国学力・学習状況調査等から基礎学力にも活用力にも課題が見える。既習の知識や技能を活用したり、自分の考えを友達の考えと関連付けたり比較したりして深めていく児童が固定化している。
<授業> ○子ども主体の学びづくりについて、社会科・図画工作科を中心に授業づくりを研究してきた。児童自らが主体となって、友達の意見を聞き、深め合うことが全教室で展開されるよう、付けたい力やその指導内容、展開等子ども主体になる授業づくりを進めていく必要がある。 ○ICT 機器を活用した授業に積極的に取り組んだ結果、児童のスキルは向上した。情報モラルの学習を継続していくとともに、活用場面を適切に位置付けてすべての子どもが「もっとわかりたい」という授業改善を進める必要がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	<input checked="" type="checkbox"/> 問題解決力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input checked="" type="checkbox"/> 意思決定力
めざす子ども像	問 ・自分で、みんなで、取り組む中で、課題に向けて調べたり、他教科と関連付けたり解決方法を考えたりと、主体的に解決の形を考えることができる。 答 ・自分の夢や目標を語り、他者と進んで関わり、互いのよさを認め合うことができる。 ・様々な表現方法で、自分のことや考えを伝えることができる。 意 ・「やってみよう」とする意欲をもち、自分の行動を自分で決定することができる。
研究	テーマ 「ワクワク感をもって、課題を探究し、自分らしく表現する児童の学びの創造」～児童が進んで選び、表現する主体的な学びづくり～ 内容等 児童が考えたい、できるようになりたい、わかりたいとチャレンジしたくなる授業展開・単元構成の工夫 多様な方法で学習する学習環境の整備と情報活用能力の育成 児童の学びを支える教職員の役割
めざす授業の姿	<b>児童がもっとやってみたい、できるようになりたい、分かってほしいと思う授業</b> ○児童全員が授業に進んで参加し、自分で考え、判断する授業(主体的) ○自己・他者・教材内容と対話し、既習や経験をつないで解決する授業(対話的) ○教科の「見方・考え方」を働かせて理解を深める授業(深い学び)

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	□達成 評価	□改善 評価	□改善 評価	□達成 評価	□総合 評価	□改善 評価
1	知 児童自ら課題 を見つけ解決 する楽しさを 味わう、子ど も主体の学び づくりを進め る。	★	新 規	子どもがチャ レンジできる 場、主体的に探 究する授業を つくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が考えたい できるようにな りたい、わかり たいとチャレン ジしたくなる授 業展開・単元構 成を工夫し、授 業構造の転換を 図る。</li> <li>基礎学力の実態 を把握し、個に 応じた多様な方 法（ICT活用等） で学習する環境 の整備を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な学習の 時間、生活科が楽 しい」「授業で考え ることが楽しい」 児童80%以上</li> <li>国語科算数科の学 期末テスト40点未 満の児童を20%未 満</li> </ul>							
				自己表現力を 向上する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な方法で自 分の考えや思い を表現する活動 や場を設定す る。(PBL学習等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育活動のあ らゆる場面で書く・ 話す活動を位置づ け、学期に1回以上 他学年や地域へ表現 活動を発信</li> </ul>							
1	徳 自分も他人も 大切にできる心 を育てる。	★	新 規	一人ひとりを 大切にした学 級経営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個の実態や状況 に応じた登校方 法や学習活動を 実践し、保護者連 携を丁寧に行 う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児童の減少 と出席数の増加</li> </ul>							
				地域に学び、地 域を大切にし た学校づくり を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した 神辺ふるさと学 習を各教科で計 画・実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「御野の人・もの・ ことを大切にしたい と思う。」肯定的 な評価90%以上</li> </ul>							
1	体 子ども主体の 体力づくりを 進める。		新 規	男女ともに県 平均値かつ全 国平均値を上 回る項目を増 やす。 男女ともに週	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育の授業の導 入に、全校各児童 が課題に応じた 目標を立て、児童 一人ひとりの課 題の項目を上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育の時間や外遊 びで体を動かすこ とが好きな児童を 90%以上</li> </ul>							

			に3日以上運動をする児童の割合を増やす。	るための運動の実施 ・月に2回程度、異学年で外遊びの実施。										
1	小中連携を含む学校における組織マネジメントの向上を図る。	新規	・中学校区の課題に小中で連携し取組む。	・小中の連携を密にし、課題を共有し、改善を図る。	・中学校区推進協議会で課題に即した4部会を年3回以上実施									
			・各分掌の仕事内容を精選するとともに、見通しを持って仕事ができる仕組みを作る。	・学年会の時間と内容を主任主事が精選し、各部署が見通しを持って運営する。	・「職員同士連携をとって仕事を進めている。」肯定的評価90%以上									
1	教職員が生き生きと働ける職場をつくる。	★新規	・仕事に対する満足感や充実感を向上させる。	・教職員の意欲を重視した取組や研修を実現する。	・「仕事にやりがいを感じている教職員」を90%以上									
			・時間と質を意識した業務を推進する。	・定時退校日を確実に実施し、自己管理システムを作り、超過勤務の縮減を意識する。	・在校時間外勤務、年間360時間以内									